



まちなか雛めぐり いにしえに想いを巡らす

4月2日・3日の二日間、まちなか雛めぐりが開催された町中心部は、町内外からの来場客で賑わいました。

蔵史館やマルコの蔵のほか、いちき邸(十日町)などの一般家庭を含む6か所で、古今雛や錦絵を展示。来場者たちは、優美で気品あふれるお雛さまを見てまわり、春の訪れを楽しんでいました。昼時には、期間限定オープンのカネカ蔵カフェ(写真)が大盛況。季節の素材をふんだんに使用した『雛御膳』に、多くの方が舌鼓を打ちました。(株)カネカの川崎常務取締役は「蔵は最低限しか手を加えず、素材を活かした作り。今後多くの人が集える場所になるとよい」と蔵カフェの魅力を語っていました。



町消防団に精鋭16名 活躍に期待

4月3日、町消防団の辞令交付式が行われ、柿崎久芳団長から16名の新入団員に辞令が交付されました。

柿崎団長は「消防団は町民の生命と財産を守るのが使命。現場では被害を最小限に食い止めるべく、それぞれの能力を活かして活躍してほしい」と新入団員を激励。新入団員代表の柴田琢磨さん(内町)は「規則や命令を遵守し、良心に従って忠実に消防の職務を遂行する」と宣誓し、団長の鼓舞に応えました。4月29日には春季消防演習が開催され、新入団員の皆さんの消防団活動が本格的にスタート。当日は、今後の活躍が期待される初々しくも勇ましい行進を披露してくれました。



ジュニア期の効果的な指導 スポーツ講演会

3月23日、「ジュニア期のトレーニングとケガ防止」と題し、金山町スポーツ講演会が開催され、スポーツ指導者を中心に、約30名が効果的な指導方法を学びました。

講師は最上町健康クラブチーフトレーナーとして活躍されている後藤一志氏。後藤講師はおすすめのアスレチックトレーニングをいくつか実演し、集まった皆さんも体を動かしながらポイントを掴んでいました。「最近は何か問題が起きないと、トレーニングやケアをしない子どもが増えている。国民皆保険である日本では、ケガ予防のための運動が遅れている」と後藤講師は指摘し、ジュニア期からの体づくりの重要性を訴えかけていました。



まちのわだい

身近なわだい、お寄せください。
総務課 広報情報係 ☎52-2111(内線225)



ソフトテニス 柴田明さんが全国5位

3月30日・31日に千葉県白子町で開催された第16回全国小学生ソフトテニス大会において、柴田明さん(七日町)が女子6年シングルスで第5位入賞を果たしました。

豊作を祈願し 春一番に山の神をお迎え

4月2日、金山町の各地域に古くから伝わる行事「山の神勧進」が行われました。

この日は町内5地区での開催。このうち内町地区では年中児から中学2年生までの男子8名が参加しました。それぞれがご神体を抱え、独特のフレーズを唱えながら地区の約60軒を周回。およそ2時間、地区内には男子たちの爽やかな声が響き渡りました。最年長で大将の川崎謙太くんは「春を感じる伝統行事。これからもずっと続くように頑張りたい」と後輩たちへエールを送っていました。「山の神勧進」は田畑を耕す前の春一番に、五穀豊穡を願い山の神様をお迎えする行事。今年1年の豊作を願うばかりです。



金山中入学式 51名が新たなスタート

4月7日、金山中学校入学式が行われ、新入生51名が中学校生活の新たなスタートを切りました。

真新しい制服に身を包んだ新入生たちは、少し緊張した面持ちで入場。その緊張をときほぐすように「中学校は各教科も専門的になり、部活動も始まる。どちらも高い目標を立て、自分ならできると強い気持ちを持ち続けてほしい」と鈴木英樹校長が優しく激励しました。菅原園加さん(写真)は「何事も仲間と共に力を合わせて頑張りたい」と新入生を代表して誓いの言葉を述べ、先生の言葉に応えました。中学校3年間で多くのことを経験し金中っ子として大きく成長してくれることを期待します。



農業セミナー 平成30年以降を見据えて

3月21日、山形大学農学部角田毅教授を講師としてお招きし、金山町農業セミナーを開催しました。

演題は「平成30年以降の金山町の農業振興について」。角田講師は冒頭に、行政による生産数量目標の配分が廃止となる等のいわゆる『平成30年問題』について説明。続けて「今までどおりの農業経営では通用しなくなるかもしれない。しっかり経営目標を立て、その実現に向けた自助努力が必要だ」と、集まった50名を超す農業者に大転換期を迎える農業で生き残る手掛かりを訴えかけました。今年度、新しい農業振興計画を策定する町にとっても、良いきっかけとなる講演となりました。



栄運輸社員ほか ごみ拾いボランティア

4月5日、栄運輸(株)の社員12名と(株)大商金山牧場の従業員1名が、下野明地内の県道沿い約2kmの区間でごみ拾いボランティア活動を行いました。

11年前から雪どけ期に行っているごみ拾いボランティア活動。阿部栄一代表取締役は「地区の環境美化とドライバーのマナーアップに繋がるとよい」と自ら先頭に立ってごみを拾っていました。この日は1時間ほどかけて、軽トラック1台分のごみを収集。参加した栄運輸社員の遠田隆栄さん(七日町)は「毎年行っているが、なかなかごみの量が減らない」と残念そうに話していました。この活動がごみのポイ捨て撲滅のきっかけとなることを願います。





『大堰』春の風物詩 鯉の放流にわく

4月21日、大堰・大堰公園で鯉が放流され、金山春の風物詩を一目見ようと、多くの来場者が集まりました。

放流された鯉はおよそ200尾。中には体長1m程の鯉もあり、着水時の大きな水しぶきとともに、放流のお手伝いをしたためごたま年長園児たちからは歓声が上がっていました。栗田佳智くん（羽場）は「鯉は思ったより冷たかった。でもとても楽しかった」と初めて触る鯉に興奮している様子でした。放流された鯉は、11月までの7か月間を大堰・大堰公園で過ごします。今や金山町の代名詞と言っても過言ではない大堰の鯉。元気にそして優雅に泳ぐ姿で、訪れる方々を癒してほしいものです。



こころにあかり 街並みライトアップ

4月25日、金山町街並みライトアップの点灯式が開催され、手づくりの吊行灯から放たれる柔らかな光で町中心部が照らされました。

今年度は町中心部へのライトアップの範囲を拡大。より多くのスポットでロマンチックな夜の金山を楽しむことができるようになりました。東京都市大学の小林教授は「住民の皆さんの協力もあり範囲を拡大できた」と4年目の迎えるライトアップに手応え。今後のライトアップ拡大には住民の参加が不可欠と話す小林教授。近い将来、町全体があたたかな光で包まれることを願って止みません。

この30年が1冊に 金山町現代史を発行

このたび、「金山町現代史 資料編」が完成しました。これまでは金山町史を1冊、昭和63年に発行。町史発行後に金山町で起こった出来事を記録するため、町史編さん員として、大友義助さん（新庄市）に資料収集と編さんに向けての作業や執筆を行っていただきました。

この30年間の人口数・世帯数の推移、蔵史館及びマルコの蔵等の開設、全国植樹祭の開催など、全20項目、94ページにわたって記録されています。中央公民館図書室のほか、町内公共施設や学校等で読むことができ、1冊1,000円で販売も行っています。詳しくは町中央公民館（☎52-2902）までお問い合わせください。



すくすくプレイランド しかけ絵本に笑顔

4月5日、すくすくプレイランドには、20名程の子ども達が訪れ、ママやおばあちゃん、お友達と楽しく触れ合いました。この日は、きつねのボタンの皆さんが「だるまさんが」や「へんなかお」など、しかけ絵本を3作品読み聞かせ。子ども達は派手な仕掛けに驚きながらも絵本に負けじと「へんなかお」を披露してくれました。

今年度、すくすくプレイランドは毎月2回、水曜日（不定期）の午前9時から正午まで、農村環境改善センターを開放し行う予定です。子育て支援センターおひさまとも連携しながら、遠足や川遊び、おもちゃ作りなどを計画しています。ぜひ一度遊びに来てみてください。

